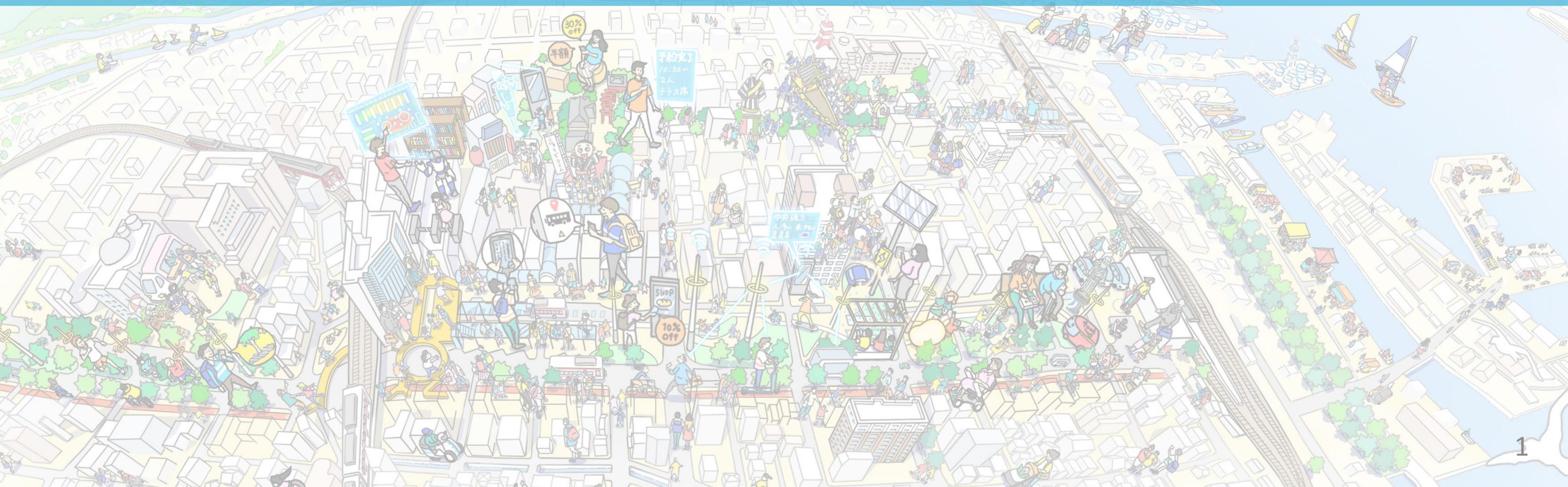


四日市スマートリージョン・コア実行計画 フォローアップ2024



CONTENTS

はじめに	・・・ 3	Ⅲ. 持続可能な仕組みに向けて	・・・ 13
実行計画の概要	・・・ 4	Ⅳ. 次年度の進め方	・・・ 16
Ⅰ. 令和6（2024）年度の主要トピック	・・・ 5	Ⅴ. 関係者一覧	・・・ 18
・スマートシティ実装化支援事業が2年目に			
・中央通りの先行整備区間、市民公園が竣工			
・先行整備区間における実証実験の実施			
Ⅱ. 12の取り組み内容に応じた進捗状況の詳細	・・・ 7		
01 ウォークابل・ネットワーク、交通結節拠点としての スマート・バスタの整備			
02 待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入			
03 ウォークابل+ウェルネス環境の展開			
04 パブリックスペースの可能性最大化			
05 インタラクティブなストリートファニチャー			
06 災害に強い中央通り			
07 人流誘導による商店街活性化			
08 スマート図書館			
09 メタバース（デジタルツイン）			
10 データプラットフォーム			
11 3D都市モデル			
12 スマート・インフラ			

はじめに

四日市市におけるスマート化に向けた取り組みは2020（令和2）年度の四日市市職員によるワークショップから始まり、2021（令和3）年度には公民連携による「四日市スマートリージョン・コア推進協議会」が設立されて本格的な検討が行われました。この推進協議会では「四日市市都市再生協議会」や「中央通り再編関係者調整会議」などと連携しつつ議論を重ね、2022（令和4）年3月に『四日市スマートリージョン・コア実行計画』を作成しました。

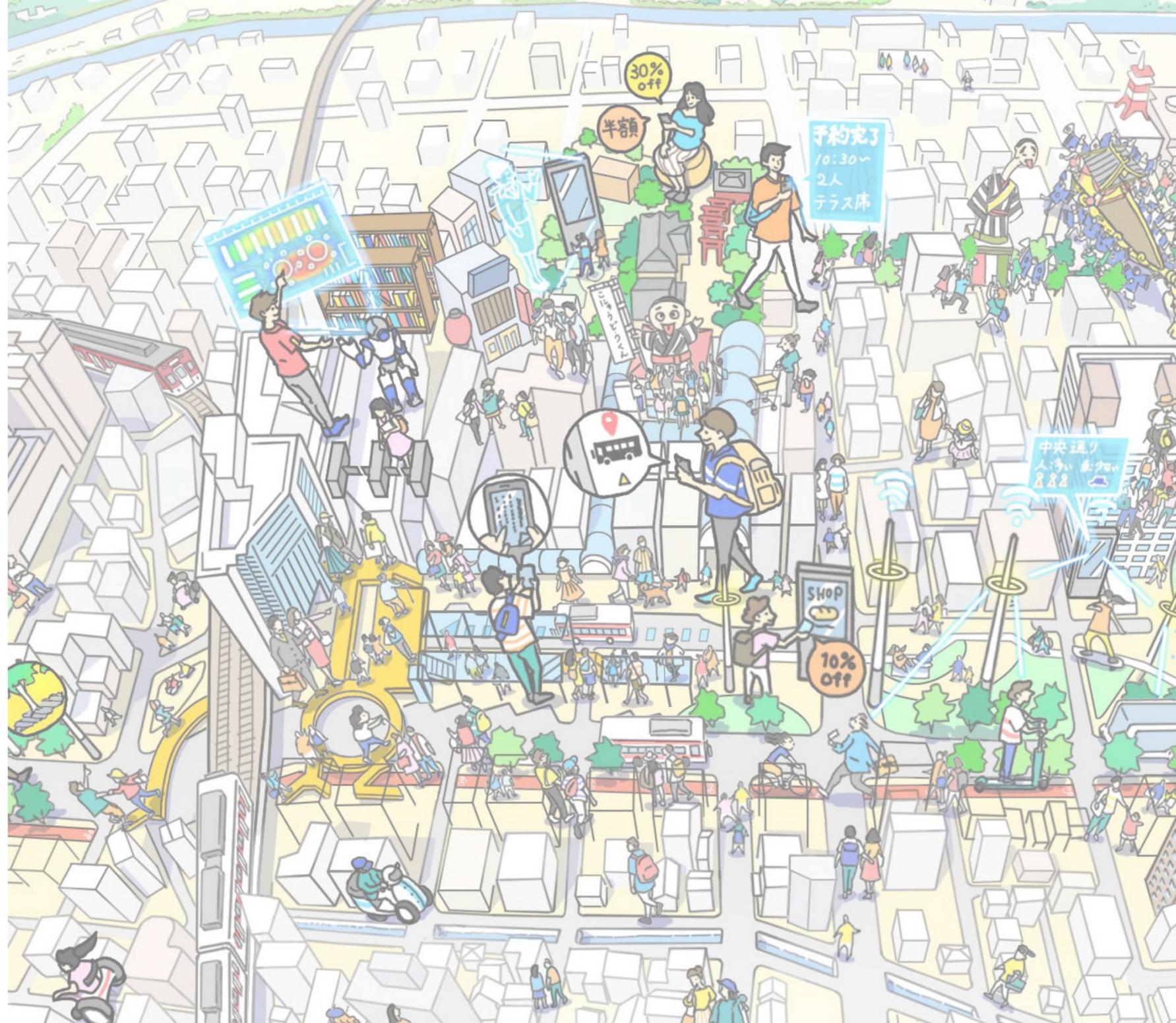
この実行計画をロードマップとして、中央通りの再編やバスターミナルの整備が完了する予定の2026（令和8）年度までにスマート化の各種取り組みを実装することを目標にしています。

本資料は、前述の実行計画のうち2024（令和6）年度の活動成果や進捗状況をとりとめることを目的としています。

まず、国土交通省のスマートシティ実装化支援事業の採択を受け、①利活用空間活性化ツールの構築、②四日市版MaaSの構築、③バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築（沿道空間利用マネジメントシステムの構築）、④中央通りにおける3D都市モデルを活用したプランニング/マネジメント・ツールの構築（デジタルインフラ台帳の構築）という、4つの事業を推進しました。これらの事業は、令和5年度から令和7年度までの3年間の実施を予定しており、今年度はその2年目にあたります。次（令和7）年度の実装を目指して、さらに各事業の取組を推進します。

また、2024年11月には、新たに完成した中央通りの歩行区間において、「賑わい創出社会実験ニワミチスポットてらす」「自動運転実証実験&デジタルポイントラリー」という実証実験を開催しました。

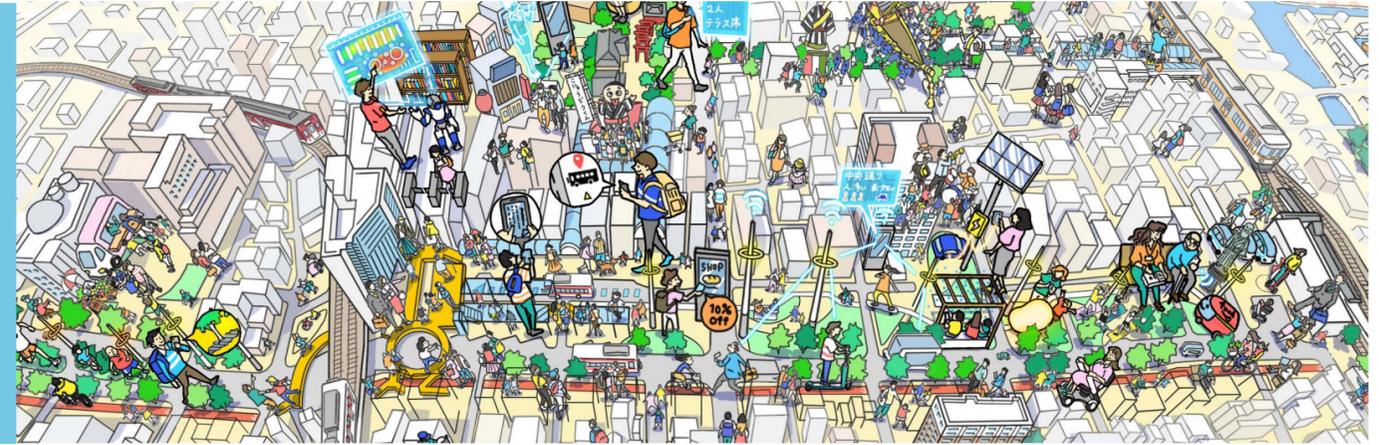
これらの成果を踏まえつつ、また2025（令和7）年度も取り組みを継続していきたいと考えています。



実行計画の概要

<実行計画の目標>

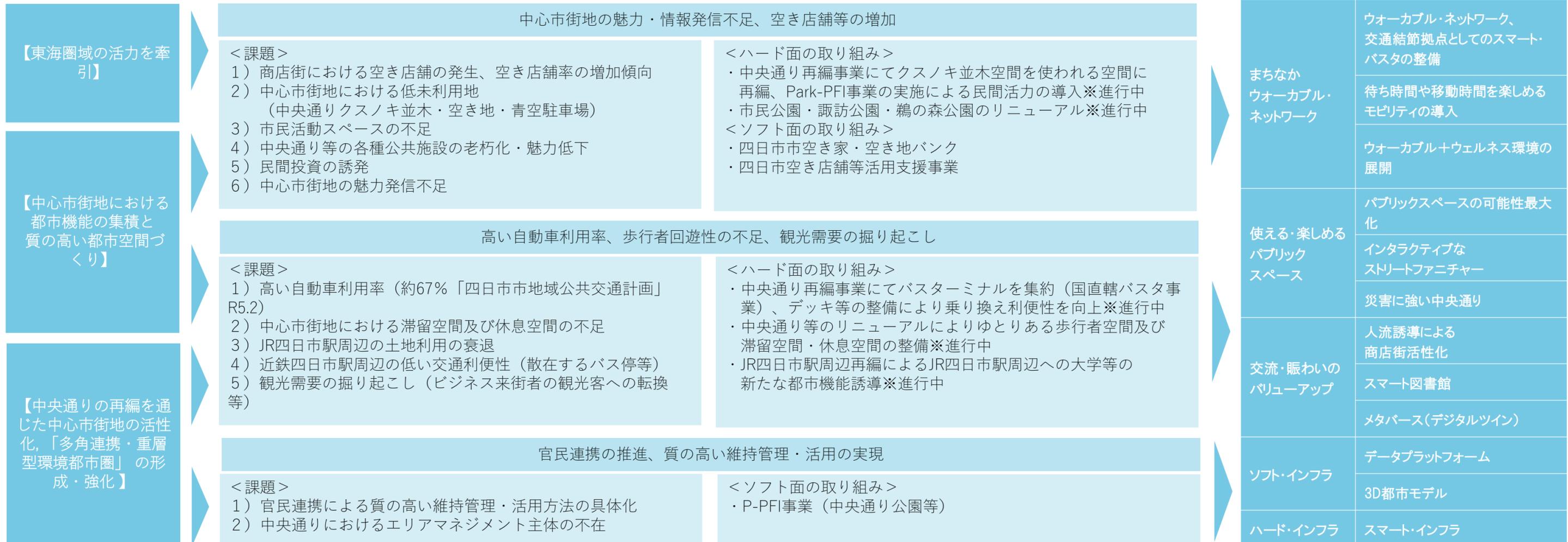
四日市スマートリージョン・コア ～都市軸と新たな「市（賑わい）」の創出～



<未来像>

<未来像実現のために解決すべき課題・既往の取り組み等>

<スマートシティ実行計画における12の取り組み>



I. 2024年度の主要トピック

- スマートシティ実装化支援事業が2年目に
- 中央通りの先行整備区間が竣工
- 先行整備区間における実証実験の実施

スマートシティ実装化支援事業が2年目に

実行計画に示された12の取り組みと、中央通りで進む公共空間再編事業を踏まえた課題に対応するため、スマート・インフラの整備や、四日市版MaaSの構築などを含む、4つのスマート関連の取り組みメニューを位置づけた。これらの取り組みメニューを、国土交通省の「スマートシティ実装化支援事業（都市サービス実装タイプ）」として応募し、2023（令和5）年6月に採択を受けた。スマートシティ実装化支援事業（都市サービス実装タイプ）の枠組みを活用し、2023（令和5）年から2025（令和7）年までの3年間で4つの事業に取り組む予定である。同事業は本年度で2年目となり、来年度の実装化に向けた実証実験を実施している。

① 利活用空間活性化ツールの構築

AIカメラの精度検証と取得データの活用方法を検討するとともに、データダッシュボードにおける過去データの表示方法の最適化について検討を行った。また、タッチパネル型デジタルサイネージを活用し、イベント情報や緊急情報を含むスマートシティサービスの効果的な情報提供方法について検証を行った。

② 四日市版MaaSの構築

データプラットフォームと連携する四日市版MaaSのプロトタイプを構築し、デジタルマップを活用してビジネス来訪者や観光客向けのまち歩き促進サービスについて実証を行った。具体的には、経路検索機能、イベント情報、駐車場・商店街情報の掲載に加え、デジタルポイントラリーや自動運転バスとの連携実験を通じて、回遊性向上効果を検証した。

③ パーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築

沿道空間利用マネジメントシステムのベータ版を構築し、利用者・提供者双方のニーズ調査を通じて来年度の実装に向けた課題を明確化した。具体的には、関係主体へのヒアリングを通じて商店街における実証環境を構築、利用者（空間を使いたい人と使ってほしい人）のニーズをヒアリングおよびアンケートにより把握し、システムの使いやすさやシステムに掲載する情報について精査した。

④ 中央通りにおける3D都市モデルを活用したプランニング/マネジメント・ツールの構築

市民公園前中央通り北側と近鉄四日市駅西口周辺において、地下埋設物の3次元モデルデータを拡張し、アクセス環境とセキュリティ面での課題を検証した。既存台帳からのモデルデータ作成と試掘結果に基づく更新作業を通じて、工数削減と施工時の調整円滑化の効果を確認するとともに、行政側の維持管理体制や更新タイミング、事業者との共有方法、国の標準仕様書との連携など、運用体制とルールの検討を実施した。



中央通りの先行整備区間・市民公園が竣工

西浦通り～市民公園東区間および市民公園の先行整備が完了し、すでに多くの市民に利用されている。



先行整備区間における実証実験の実施

中央通りの先行整備区間を対象に、2024年11月に賑わい創出社会実験・自動運転社会実験を実施し、同時にR6年度のスマートシティ実装化支援事業の実証を行った。

賑わい創出社会実験ニワミチスポットてらす

新たに完成した中央通りの歩行空間において、試験的にランチャタイムなどにおけるキッチンカー等のサービスを許容し、どの程度の出店や利用があるのかを検証した。また、仮設のデジタルサイネージを用いて、データ可視化サービスの効果検証、実空間におけるスマートシティ取組の周知の有用性検証を行った。

自動運転実証実験&デジタルポイントラリー

近鉄駅西側を対象として、2台の自動運転バスを運行。同時に電動キックボード講習会・試乗会も開催した。また、中央通り周辺のスポットを巡りポイントを取得する「デジタルポイントラリー」を実施した。



Ⅱ. 12の取り組み内容に応じた 進捗状況の詳細

- 01 ウォークابل・ネットワーク、交通結節拠点としてのスマート・バスタの整備
- 02 待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入
- 03 ウォークابل+ウェルネス環境の展開
- 04 パブリックスペースの可能性最大化
- 05 インタラクティブなストリートファニチャー
- 06 災害に強い中央通り
- 07 人流誘導による商店街活性化
- 08 スマート図書館
- 09 メタバース（デジタルツイン）
- 10 データプラットフォーム
- 11 3D都市モデル
- 12 スマート・インフラ

01 ウォークابل・ネットワーク、交通結節拠点としてのスマート・バスタの整備

取り組み概要（実行計画より）

- 観光・賑わい創出の拠点
- 交通情報等の配信、乗り換え利便性の向上
- 脱炭素・レジリエント拠点



今年度の検討状況

管理運営事業者とともに、施設運用及びデジタルサイネージ表示内容等の調整検討に着手。

次年度の予定

管理運営事業者とともに、施設運用及びデジタルサイネージ表示内容等の調整検討。

参考：昨年度の検討内容（再掲）

デジタルサイネージの配置箇所

デジタルサイネージ設置イメージ

バスバース	待合空間	主要出入口	モニタリング用カメラ設置イメージ
新宿バース	府中駅前バスターミナル	府中駅前バスロータリー	東京駅JR高速バスターミナル

02 待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入

取り組み概要（実行計画より）

- 多様なモビリティの導入
- マルチ・モビリティポートの設置
- 予約システムの構築（四日市版MaaS）



今年度の検討状況

自動運転バス、次世代モビリティ等の実証実験を2024年11/6～11/27に実施。

MaaS×まち歩きの取り組みとしてデジタルポイントラリーを実施(170名参加)。

四日市デジタルマップと交通情報（主要駐車場の満空情報、自動運転バス位置及び混雑度、三重交通バス位置情報等）と連携。

モビリティ	デジタルポイントラリー機能	自動運転バスのリアルタイム位置情報と混雑度を表示	駐車場の位置と満空情報を※DP経由で表示

次年度の予定

自動運転の導入に向け、引き続き実証実験を予定。

MaaSの機能拡張を進めるとともに、関連情報を閲覧するためのダッシュボードの整理を予定。

03 ウォーカブル+ウェルネス環境の展開

取り組み概要（実行計画より）

- 四日市ウォーカブルマップの構築
- 快適なウォーカブル環境の展開



今年度の検討状況

2024年11月に中央通り沿いにデジタルサイネージを仮設置し、中心市街地の魅力発信コンテンツに加えて災害関連情報等を発信し、アンケート調査を通じて市民ユーザー等の反応を調査した。

2025年2月には市民公園にデジタルサイネージを本設置した。

デジタルサイネージによる中心市街地の魅力発信コンテンツ

中央通りの歴史

・中央通りの歴史

ニワミチよっかいちプロジェクトストーリー

・協議会/WG検討の過程

・はじまりの市などの社会実験イベントダイジェスト

ニワミチよっかいち SMART REGION CORE

中央通り再編関係者調整会議 設置

次年度の予定

デジタルサイネージ等を通じて、より市民の歩行や屋外での活動を促す環境情報を提供。

04 パブリックスペースの可能性最大化

取り組み概要（実行計画より）

- パブリックスペースの現況把握と可視化
- 場所の予約システム、デリバリーサービスの展開
- パブリックスペースのフレキシブルな利活用



今年度の検討状況

沿道の歩行者空間や低未利用地・空き店舗などを官民連携で一体的に取り扱うサービスを検討。沿道空間利用マネジメントシステムとして、利活用空間ウェブサイト（ベータ版）を開発した。

異なる民地の一体的利用

空き店舗の解消

利活用ノウハウの蓄積

道路と民地の一体的賑わいづくり

<トップページ> <空間探しページ> <物件情報フィルタ>

次年度の予定

利活用空間ウェブサイトの正式版のリリースに加え、人流データ・使用者評価情報（口コミ）の有用性について実証を行う予定。

05 インタラクティブなストリートファニチャー

取り組み概要（実行計画より）

- 照明による演出
- 人の動きに反応するエンターテインメント要素の付加



今年度の検討状況

過年度に引き続き、環境センサで取得したデータの可視化を行った。

次年度の予定

歩行者空間における暑熱環境の向上を目的として、ミスト等の導入検討を実施。

06 災害に強い中央通り

取り組み概要（実行計画より）

- 災害情報の配信、避難所への誘導
- 中央通りにおけるローカルグリッド構築



今年度の検討状況

デジタルサイネージの災害情報連携実証を実施。表示の見やすさや、災害時の情報提供の有用性を実証した。



次年度の予定

データプラットフォームを通じた災害時情報のオープン化およびデジタルサイネージを用いたさらに適切な災害情報伝達方法を検討。

07 人流誘導による商店街活性化

取り組み概要（実行計画より）

- 人流・混雑状況の可視化
- 人流の誘導
- 店舗側のマーケティング支援



今年度の検討状況

商店街関係者等との協議を経て、沿道空間利用マネジメントシステムとして、利活用空間ウェブサイトのベータ版を構築。空き店舗等の空間を使ってほしい人と、空間を使いたい人とのアンケートを行った。

収集されたデータを公園や商店街で有効活用するため、データプラットフォームワーキンググループにおいてワークショップを実施した。



利活用空間ウェブサイトのイメージ



データプラットフォームWGのワークショップ

次年度の予定

スマートシティ実装化支援事業の枠組みを活用するとともに、データプラットフォームワーキンググループでの活動等を通じて、情報可視化・利活用、マーケティング支援の取り組みを引き続き検討予定。

08 スマート図書館

取り組み概要（実行計画より）

- デジタル技術を活用した効率的な図書館運営について検討
- 図書館周辺や中央通りにおける電子書籍閲覧を検討



今年度の検討状況

ICタグを使用した自動貸出機・自動返却ポスト・セキュリティゲートを導入。ICタグの活用により、貸出・返却時の複数冊の一括処理や返却後の仕分け処理が自動化され、利便性へのサービス向上に加え、業務の効率化につながった。また、令和5年度に導入した電子図書館については、令和6年度で約24,000コンテンツとなっている。

09 メタバース（デジタルツイン）

取り組み概要（実行計画より）

- 様々なコミュニケーションツールとしての活用
- シティプロモーション
- 仮想空間と現実空間のハイブリッドによる市民生活の効率化や経済の活性化



今年度の検討状況

令和4～5年度のメタバースの実証実験を踏まえ、中央通りでの取り組みはメタバースに限ることなく他のツールの可能性についても広げていくこととし、令和6年度からは、スマートシティ実装化支援事業における「利活用空間活性化ツールの構築」「四日市版MaaSの構築」「バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築」によりシティプロモーション、市民生活の効率化及び経済の活性化等に取り組んでおり、メタバースとしての取り組みの実施はなし。

次年度の予定

次年度以降の予定無し。

10 データプラットフォーム

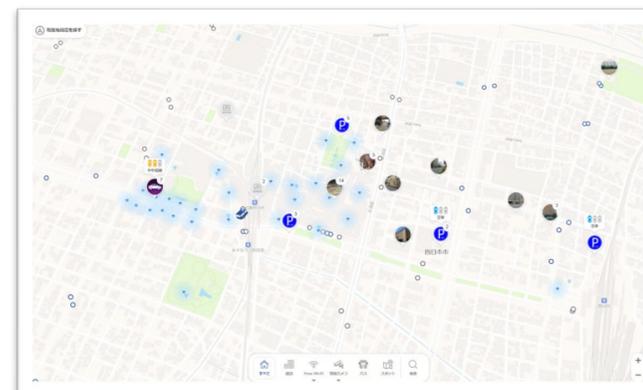
取り組み概要（実行計画より）

- 公民学で連携して必要なデータを集約する
- 十分なセキュリティにより安全性を確保
- 新たなイノベーションの創出や、スマート化の取り組み全体の最適化



今年度の検討状況

昨年度に引き続き、設置されたスマート・インフラと連携し、データプラットフォーム上で人流データ、環境データの蓄積、ポータルサイトサイト、ダッシュボード、デジタルマップを運営。四日市版MaaSの機能として、交通情報（主要駐車場の満空情報、自動運転バス位置及び混雑度、三重交通バス位置情報等）をデジタルマップと連携。オープンデータを活用し、中心市街地の課題を解決するアプリを開発する「四日市まちづくりハッカソン」を開催。



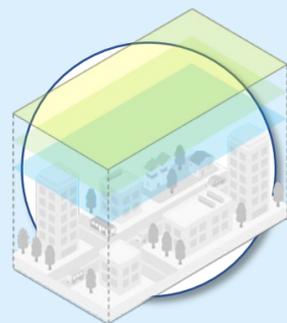
次年度の予定

データプラットフォームの連携強化（災害情報、MaaSデータダッシュボード、沿道空間利用マネジメントシステム）と、持続的なデータ利活用のための体制構築に向けて、データの有料サービスの可能性について検討を行う予定。

11 3D都市モデル

取り組み概要（実行計画より）

- 3D都市モデルを構築し、オープンデータ化
- ユースケースを開発



今年度の検討状況

スマートシティ実装化支援事業の一環として、中央通りのデジタルインフラ台帳構築を推進。実際の運用時と同様に関係者（市および埋設事業者）のみがアクセスできる環境を構築し、データの閲覧・更新を試行。

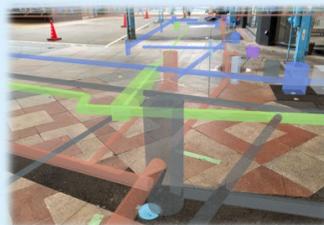


デジタルインフラ台帳の画面例
初期画面（左）、断面表示（上）

次年度の予定

地下インフラ台帳データの構築範囲を全線に拡大し、モデルを利用したユースケースの実証（ARの活用）を予定。

沿道空間利用マネジメントシステムにおいても、3D都市モデルとの連携を検討予定。



現場におけるARソフト活用のイメージ

12 スマート・インフラ

取り組み概要（実行計画より）

- サービスを実現するために必要なデータを計測するために、センサなどの情報通信機器を整備



今年度の検討状況

中央通りの再編事業と合わせて、昨年度に引き続き、市民公園へスマートポール、デジタルサイネージなどを順次設置



次年度の予定

中央通りの再編事業と合せて、引き続きスマート・インフラを整備予定。

参考：スマート・インフラの整備予定



Ⅲ. 持続可能な仕組みに向けて

官民連携によるニワミチの一体的なマネジメント

- 中央通りの賑わいづくりにおいては、その運営に関わる多主体が協働し、中央通りへの関係人口を増やしなが、質の高い利活用を持続的に進めていく必要がある。
- 四日市市では「ニワミチよっかいち」利活用戦略を定め、今後の利活用の体制やルール等についてまとめている。
- 利活用の体制として、（仮）ニワミチよっかいちまちづくりパートナーズ（以下、NYP）を設置し、官民連携でニワミチの一体的なマネジメントを行うこととされている。その機能のひとつとして「スマートシティ実装化機能」が挙げられており、公共空間での取得データの情報管理業務、各種データの編集・発信業務等を行う予定である。

「ニワミチよっかいち」利活用戦略の策定

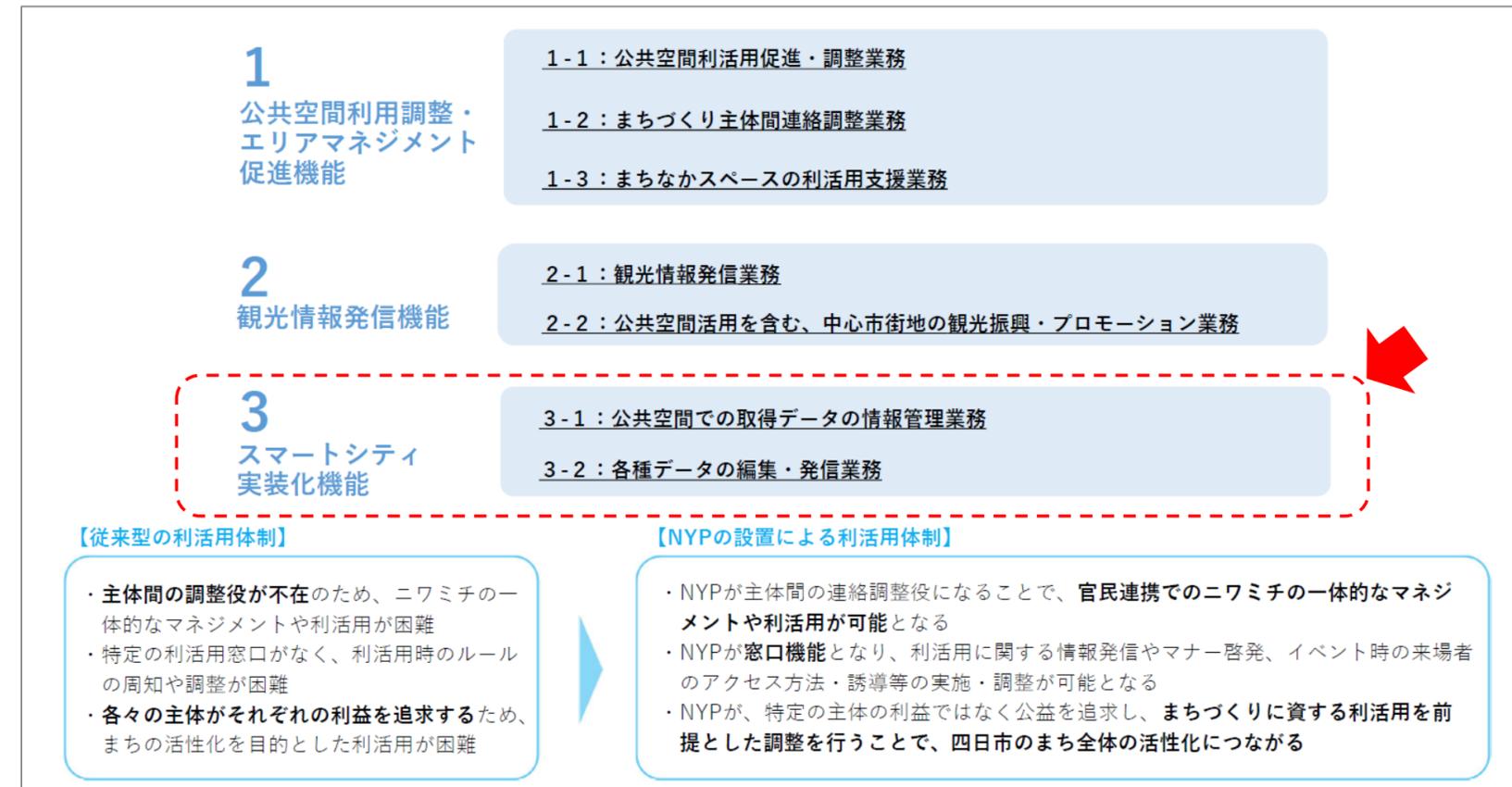
市は、中央通りの空間再編を契機として、四日市の賑わいづくりに関する関係人口を増やしていきつつ、質の高い利活用を持続的に進めていくことで、下記の狙いを達成するために「ニワミチよっかいち」利活用戦略を策定。

1. それぞれの空間活用の担い手が連携して取り組むまちのエリアブランディング
2. ニワミチからまち、さと、みなとへのまちづくり・賑わいの波及
3. ニワミチをまちづくりの総合拠点化し、東海エリアにおける西の中核都市へ
4. 更なる賑わいづくりに向けた商店街、沿道、周辺公共施設との連携



まちづくり主体に求められる機能

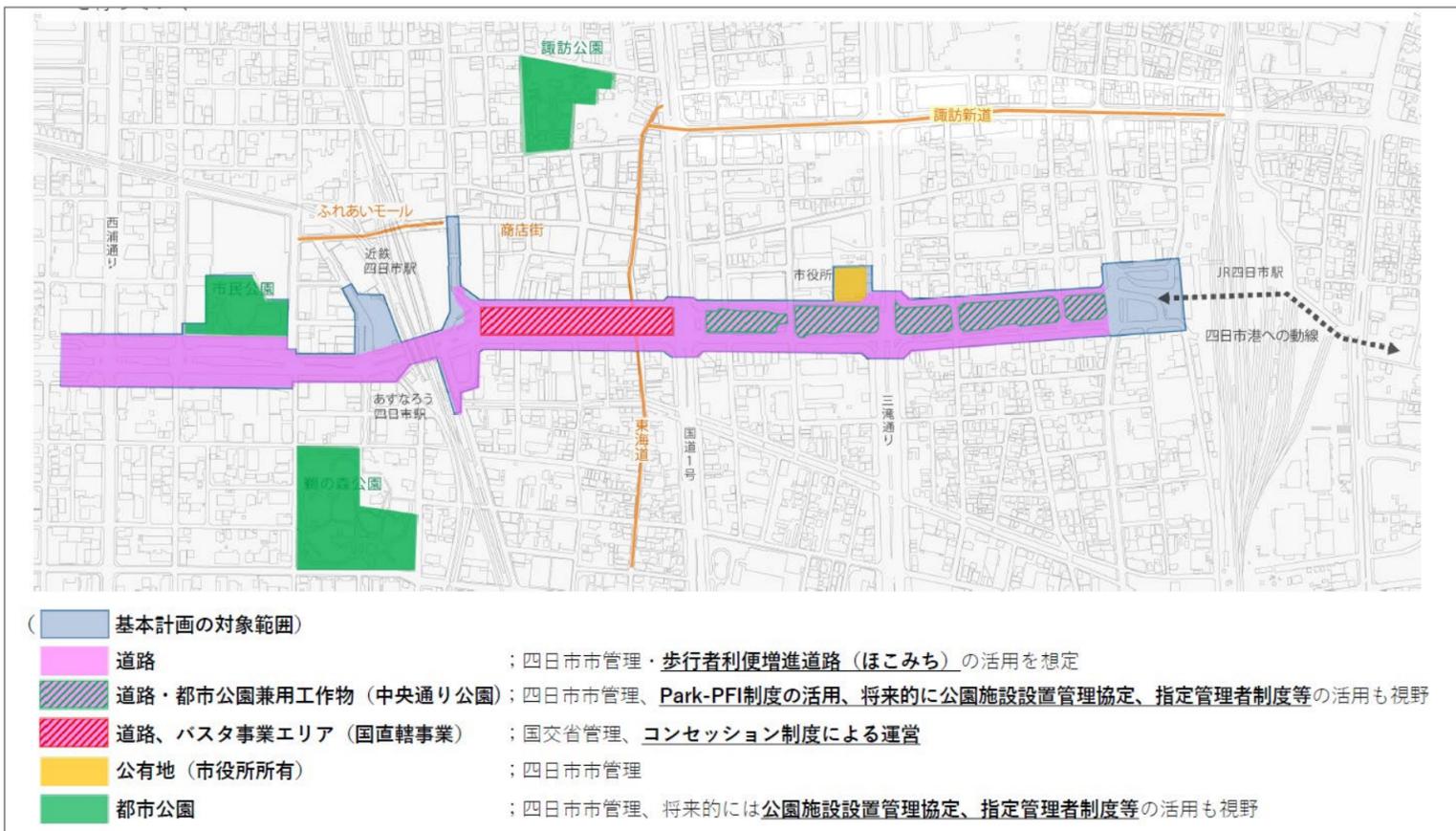
- ・まちづくり主体に求められる以下の機能を担う（仮）ニワミチよっかいちまちづくりパートナーズ（以下、NYP）を設置し、官民連携でニワミチの一体的なマネジメントを行う。
- ・NYPの機能のひとつとして「スマートシティ実装化機能」が挙げられている。



官民連携によるニワミチの一体的なマネジメント

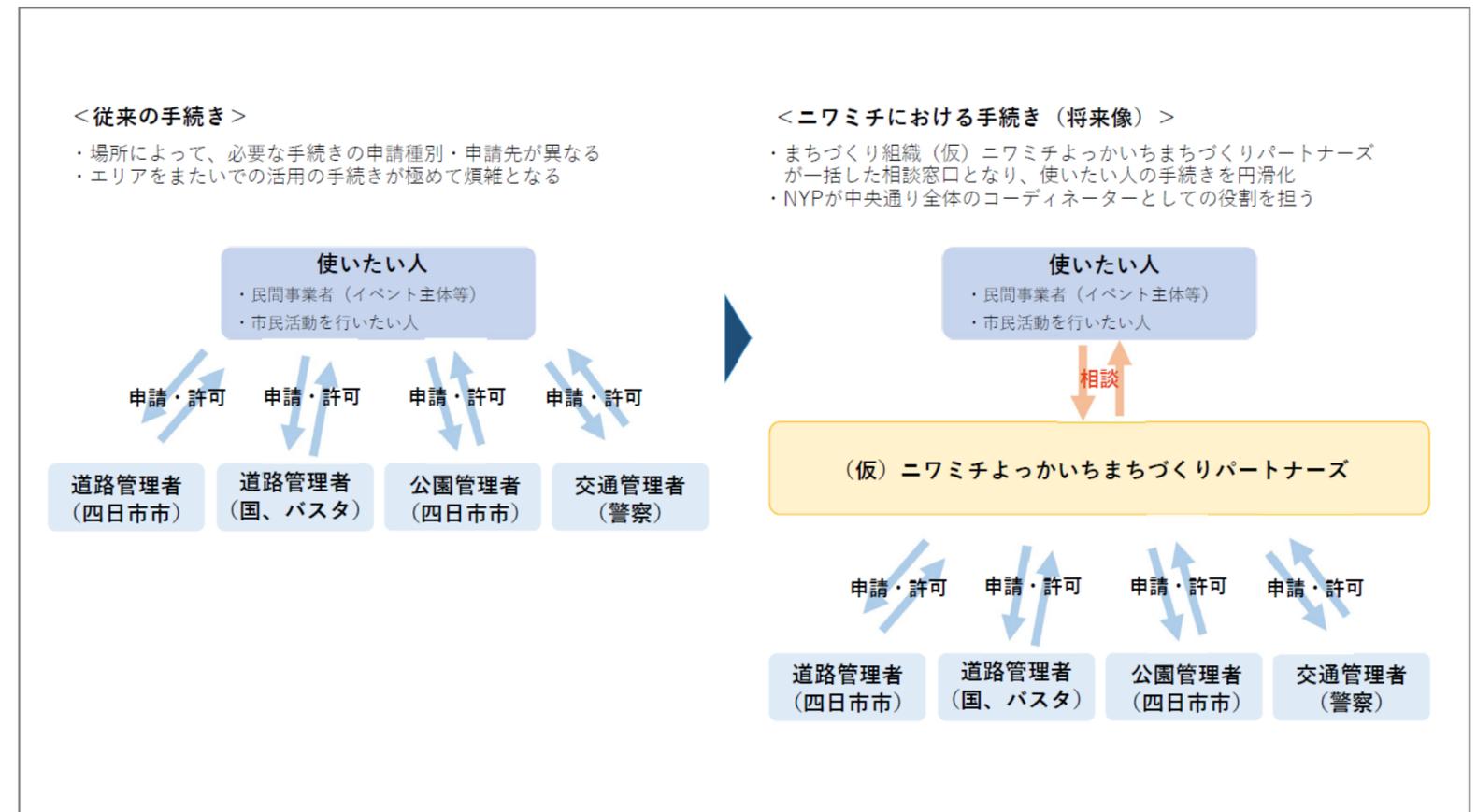
利活用戦略の対象範囲

- ・本利活用戦略の対象範囲は、下記に示す通りである。対象範囲内には、道路・公園・道路と公園の兼用工作物が含まれるが、これらの特性に合わせ、下記の利活用制度を活用し、官民連携で賑わいづくりを行っていく。



ニワミチにおける利活用手続きの円滑化

- ・対象エリアでは、空間利用に際しての手続きが多岐に渡ることが使いたい人にとって少なからずハードルになっている
- ・利活用を促進するため、（仮）ニワミチよっかいちまちづくりパートナーズが一括して相談窓口の機能を担うことで、手続きの円滑化を図る



出典：「ニワミチよっかいち」利活用戦略／四日市市／2025年1月更新

IV. 次年度の進め方

番号	取り組み内容	スケジュール					
		令和4 (2022)年度	令和5 (2023)年度	令和6 (2024)年度	令和7 (2025)年度	令和8 (2026)年度	令和9 (2027)年度 以降
(参考)	近鉄四日市駅 周辺等整備工事		近鉄四日市駅 西工区竣工	近鉄四日市駅～ 国道1号工区竣工		全区間 竣工	
01	ウォークابل・ネット ワーク、交通結節拠点 としてのスマート・ バスタの整備	与件整理・関係者調整			システム 構築	実証実験 部分実装	
02	待ち時間や移動時間を 楽しめるモビリティの 導入	実証実験	システム構築		部分実装	全体実装	
03	ウォークابل+ ウェルネス環境の展開	設計・調整	部分実装			全体実装	
		センサ等の実証実験					
04	パブリックスペースの 可能性最大化	設計・調整	部分実装			全体実装	
		実証実験					
05	インタラクティブな ストリート ファニチャー	設計・調整	部分実装			全体実装	
06	災害に強い中央通り	設計・調整	部分実装			全体実装	
07	人流誘導による 商店街活性化	与件整理、 関係者調整		実証実験	部分実装		
08	スマート図書館	設計、調整、実装					
09	メタパス (デジタルツイン)	システム構築		実装 (運用開始後に段階的に拡張)			
10	データ プラットフォーム	システム 構築	実装 (運用開始後に段階的に拡張)				
11	3D都市モデル	システム 構築	実装 (運用開始後に段階的に拡張)				
		ユースケース実施					
12	スマート・インフラ	設計・調整	部分実装			全体実装	

番号	令和6（2024）年度の進捗状況	令和7（2025）年度の予定
	—	—
01	管理運営事業者とともに、施設運用及びデジタルサイネージ表示内容等の調整検討に着手しており、 遅れなし	管理運営事業者とともに、施設運用及びデジタルサイネージ表示内容等の調整検討
02	実証実験を通じて四日市版MaaSのシステム構築が進められており、 遅れなし	自動運転の導入に向け、引き続き実証実験を予定。MaaSの機能拡張を進めるとともに、関連情報を閲覧するためのダッシュボードの整理を予定。
03	中央通り周辺にデジタルサイネージを設置し、市民等に有用な情報提供を行っており、一定の成果が得られているため、 遅れなし	デジタルサイネージ等を通じて、より市民の歩行や屋外での活動を促す環境情報を提供。
04	沿道の歩行者空間や低未利用地・空き店舗などを官民連携で一体的に取り扱うサービスとして、利活用空間ウェブサイト（ベータ版）を開発しており、 遅れなし	利活用空間ウェブサイトの正式版のリリースに加え、人流データ・使用者評価情報（口コミ）の有用性について実証を行う予定。
05	過年度に引き続き、環境センサで取得したデータの可視化を行っており、 遅れなし	歩行者空間における暑熱環境の向上を目的として、ミスト等の導入検討を実施。
06	デジタルサイネージを通じて災害情報連携実証を実施し、表示の見やすさや、災害時の情報提供の有用性を明らかにするなど、一定の成果を得られているため、 遅れなし	データプラットフォームを通じた災害時情報のオープン化およびデジタルサイネージを用いたさらに適切な災害情報伝達方法を検討。
07	スマートシティポータルサイト上での人流データ可視化の継続に加え、前述の利活用空間ウェブサイトのベータ版構築、商店街におけるデータ利活用についてデータプラットフォームWGにおいてワークショップを実施するなど、一定の成果が得られているため、 遅れなし	スマートシティ実装化支援事業の枠組みを活用するとともに、データプラットフォームワーキンググループでの活動等を通じて、情報可視化・利活用、マーケティング支援の取り組みを引き続き検討予定。
08	ICタグを使用した自動貸出機・自動返却ポスト・セキュリティゲートを導入するなど 遅れ無し	新図書館の整備に向けた検討を予定。
09	令和4～5年度のメタパスの実証実験を踏まえ、中央通りでの取り組みはメタパスに限ることなく他のツールの可能性についても広げていくこととし、令和6年度からは、スマートシティ実装化支援事業における「利活用空間活性化ツールの構築」「四日市版MaaSの構築」「バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築」によりシティプロモーション、市民生活の効率化及び経済の活性化等に取り組んでおり、メタパスとしての取り組みの実施はなし。	次年度以降、実行計画見直しの際に変更を予定。
10	データプラットフォームを基盤として、スマート・インフラ、スマートシティポータルサイト、四日市版MaaSとのデータ連携が進んでいるため、 遅れなし	データ連携強化（災害情報、MaaSデータダッシュボード、沿道空間利用マネジメントシステム）と、持続的なデータ利活用のための体制構築に向けて、データの有料サービスの可能性について検討を行う予定。
11	3D都市モデル活用のユースケースのひとつとして、中央通りの地下デジタルインフラ台帳の構築範囲を拡大、ユーザーのニーズ把握などの実証を実施、 遅れなし	ARを活用した地下インフラ台帳データを利用したユースケースの展開に加え、沿道空間利用マネジメントシステムにおいても、3D都市モデルとの連携を検討予定。
12	中央通りの先行整備区間においてAIカメラや環境センサー等のスマート・インフラの整備を進めていることから、 遅れなし	中央通りの再編事業と合せて、引き続きスマート・インフラを整備予定。

いずれの取り組みも令和6年度において遅れはありません。一部の取組については、次年度以降、実行計画の見直しを行う予定です。

V. 関係者一覧

事業主体の名称	四日市スマートリージョン・コア推進協議会（実行計画の推進主体）	
事業主体の構成員	地方公共団体代表	： 四日市市
	有識者	： 東京大学大学院 村山 顕人 名城大学理工学部 松本 幸正 早稲田大学大学院創造理工学研究科 有賀 隆
事業主体の構成員	幹事会員	： 近畿日本鉄道株式会社 三重交通株式会社 三岐鉄道株式会社 三重県タクシー協会/株式会社三交タクシー 学校法人みえ大橋学園 株式会社近鉄百貨店 四日市商工会議所 株式会社ディア四日市 近鉄グループホールディングス株式会社 近鉄不動産株式会社 株式会社シー・ティー・ワイ 株式会社三十三銀行 中部電力株式会社 国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 三重県
	賛助会員	： 株式会社FIXER 株式会社マクニカ 株式会社VACAN 株式会社日建設計 FUTURE株式会社 富士通Japan株式会社 早稲田大学
実行計画の期間等	オブザーバー	： 国土交通省 都市局 街路交通施設課

(敬称略_順不同)



30% off

半額

予約完了
10:30-
2人
テラス席

中央通り
100m先
飲食店

SHOP
10% off